



平成23年9月2日

救急医療週間の実施について

— 9月9日は「救急の日」 —

救急医療週間は、救急医療と救急業務に対する都民の皆様の正しい理解と認識を深め、救急医療関係者の意識を高めることを目的に、毎年9月9日を含む日曜日から土曜日までの1週間に行っています。

本年も、9月9日（金）の「救急の日」や、9月4日（日）から9月10日（土）までの「救急医療週間」を中心に、東京消防庁救急相談センターの周知を端緒として救急業務への理解を高め、更に、応急手当技能の普及並びに応急手当の実施に対する意識の高揚を図るために、平成23年度東京消防庁救急セミナー（開催地：新宿区）をはじめとする行事を実施いたします。

1 救急医療週間

平成23年9月4日（日）から9月10日（土）まで

2 推進事項

東京消防庁では、広く都民に対して「東京消防庁救急相談センターの周知及び利用促進」とともに、「応急手当技能を身につけ、応急手当を行うことの重要性」、「救急車の適正利用」を呼びかけていきます。

(1) 東京消防庁救急相談センターの周知及び利用促進

東京消防庁救急相談センター（以下「救急相談センター」という。）は、本年6月1日で開設4年目を迎えました。この間に、約116万6千件の電話を受付け、約94万2千件の医療機関案内（※1）と約19万9千件の救急相談（※2）を行い、急な病気やけがで判断に迷う都民に安心を提供するとともに、救急搬送された傷病者の軽症の割合が低下するなど、救急車の適正利用等に関しても成果をあげています。（別紙1-1から1-3）

このことから、「救急の日」及び「救急医療週間」の機会を捉え、都民が急な病気やケガをした場合に、「救急車を呼んだほうがいいのか？」、「今すぐ病院に行ったほうがいいのか？」など迷った際の相談窓口として利用してもらえるように、救急医療週間中に消防署で行う行事等を通じて、より一層の周知及び利用促進を図ることで、真に救急車を必要とする傷病者を一刻も早く救護することができるよう、集中的かつ強力に広報活動を推進していきます。

なお、平成22年中の東京消防庁救急相談センターの受付状況等については、別

紙 2-1 から 2-3、救急医療週間前後の主な相談センター広報行事予定は別紙 3 のとおりです。

(2) 応急手当の普及啓発の推進

心肺停止状態に陥った傷病者を救命するためには、現場に居合わせた人（バイスタンダー）による応急手当の実施が極めて重要です。東京消防庁では、応急手当普及員（※3）を対象とした「JRC（日本版）ガイドライン 2010」の教養を目的とした救急セミナーを実施するほか、各消防署において応急手当の講習会やイベントが開催され、広く都民に対し応急手当を積極的に実施できるよう普及、啓発します。

平成 23 年度東京消防庁救急セミナー

応急手当普及員を対象とした「JRC（日本版）ガイドライン 2010」の指導要領の講習会【参加対象者 300 名】を開催いたします。

■ 実施内容

・教育講演

講師 東京医科大学救急医学講座 教授 太田祥一先生

・指導要領の実技講習

■ 開催日時

平成 23 年 9 月 10 日（土）9 時 30 分から 12 時 30 分

■ 場所

新宿コズミックセンター（新宿区大久保 3 丁目 1 番 12 号）

バイスタンダーの応急手当の実施状況とその効果について別紙 4-1 から 4-4 に示します。

ア 別紙 4-1 の解説

平成 22 年中の全心停止傷病者搬送人員 12,916 人の発生場所別応急手当の実施状況は、別紙 4-1 のとおりです。

公衆の出入りする場所での応急手当の実施状況を見ると、駅では 167 人の心停止傷病者が発生し、そのうち 86 名（51.5%）の人に対して応急手当が実施されています。運動場や体育館では 57 人の心停止傷病者が発生していますが、40 名（70.2%）の人に対して応急手当が行われています。

一方、搬送人員の 73% を占める住宅では、9,391 名の心停止傷病者が発生し、そのうち 1,919 名（20.4%）に対して応急手当が行われています。昨年と比較し 1.7 ポイント向上しているものの、一般道路よりも低くなっており、住宅は決して安全な場所とは言えない状況であり、応急手当の実施率向上が望まれるところです。

イ 別紙 4-2 の解説

平成 22 年中、都民の目の前で卒倒するなど都民等が心停止の発症を目撃した傷病者は 4,647 人で、バイスタンダーによる応急手当（心停止傷病者に対して有効な手当＝人工呼吸・胸骨圧迫・AED 等による除細動処置に限定）の実施状況は、図 1、表 1 のとおりです。

都民等により心肺蘇生法等の応急手当が行われていたのは 1,720 人（37.1%）です。

0%)でした。このうち救急隊が医療機関に傷病者を収容するまでに呼吸又は脈が回復した傷病者は339人(19.7%)で、応急手当が行われていなかった場合と比較すると、9.3ポイント高い結果になっています。

また、心停止の目撃があった場合は応急手当の実施の有無により、1ヶ月生存率に約2.6倍の差が生じています。

ウ 別紙4-3の解説

平成22年中の都民等のAEDによる除細動実施人数(速報値)は123人で、その内66人(53.7%)が病院到着前に呼吸や脈拍の回復がありました。過去3年を比較すると、都民による除細動実施件数とともに、呼吸、脈拍の回復する傷病者数の増加が認められます。また、前イのバイスタンダーにより応急手当が行われた場合の回復率と比較し、約3倍の高い効果が認められています。

エ 別紙4-4の解説

心停止した傷病者を救命するためには、「早い119番通報」「早い心肺蘇生」「早い除細動」「早い2次救命処置」の4つが連続して行われることが必要です。この4つのうちどれか一つでも途切れてしまえば、救命効果は低下します。

カーラーの救命曲線は、心臓停止など緊急事態における経過時間と死亡率の関係を示したものです。心停止では3分間放置されると死亡率が約50%になります。(①曲線)

平成22年中の東京消防庁管轄区域内の救急出場件数は、700,981件で、45秒に1回の割合で出場しています。また、救急車が現場に到着するまでに、平均で6分48秒かかっています。一人の尊い命を救うためには、バイスタンダーによる早い通報、早い心肺蘇生、早い除細動、救急隊や消防隊、医療機関で処置をする医師、看護師、検査技師など多くの人の力が一つにつながることが必要ですが、とりわけ、バイスタンダーにより、救急隊が到着するまでに行われる応急手当がいかに重要かを示しています。

(3) 救急車の適正利用の促進

救急車の到着が遅れると、救える命が救えなくなる可能性があります。東京消防庁では「本当に救急車を必要としている声に応える」ため、救急車は緊急性がある時に利用するよう適正利用を呼びかけています。

ア 東京民間救急コールセンター利用促進の広報推進

東京消防庁では、「緊急ではないけれど交通手段がない！」このようなときは東京民間救急コールセンターを利用するよう、働きかけています。東京民間救急コールセンターでは患者さんの都合に合わせて、寝台(ストレッチャー)や車椅子のまま搬送する民間救急車と、ご自分で歩行可能な方を搬送するサポートCab(救命講習を修了した運転手が乗務するタクシー)を案内しています。(搬送費用は有料です。)また、効果的な運用を図るため、地区医師会、救急医療機関等の関係機関及び都民に対して緊急性がない転院搬送、通院及び入退院には、民間救急、タクシー等を利用するよう理解と協力を求めています。

イ 救急搬送トリアージの実施

救急隊が傷病者を観察し、緊急性が認められない場合には、救急車で傷病者を搬送しない救急搬送トリアージを実施しています。

3 応急手当普及啓発用ポスターについて

- (1) 絵柄
別添えのとおり
- (2) キャッチコピー
「日頃から 覚えて安心 応急手当」(平成23年度東京消防庁救急標語)
(作成者 金子 祐子さん 西東京市)
- (3) 目的
「救急の日」及び「救急医療週間」にあたり、応急手当を覚え、互いに助け合う社会をつくることの尊さを訴えることにより、都民の応急手当に関わる意識の高揚を図ることを目的としています。

4 行事等の取材について

- (1) 救急相談センター広報行事等の取材を希望される場合は、当日、各広報行事会場の集合場所において、事前レクチャー開始時間までに、社名、人数及び氏名をご連絡ください。(別紙3参照)
- (2) その他
ア 各行事会場に駐車場はありませんのでご了承ください。
イ 取材の際は、自社腕章の着用をお願いします。

用語の解説

- ※1 医療機関案内・・・各医療機関からの最新の診察情報をもとに、最寄りの診察可能な医療機関を案内しています。
- ※2 救急相談・・・相談者の症状により、救急相談看護師が救急相談医師の助言を受けて、医療機関受診の必要性の有無や必要により救急車での受診をすすめるなどしています。
- ※3 応急手当普及員・・・普通救命講習、普通救命再講習の指導が行える資格を取得している方。

問合せ先

東京消防庁(代)	電話	3212-2111
救急医務課救急相談係	内線	4545~4546
救急指導課救急普及係	内線	4625~4626
広報課報道係	内線	2345~2350

■東京消防庁救急相談センター

急な病気やケガをした場合に、「救急車を呼んだほうがいいのかな?」、「今すぐ病院に行ったほうがいいのかな?」など迷った際の相談窓口として、「東京消防庁救急相談センター」を開設しています。

東京消防庁救急相談センターでは、これらの相談に、相談医療チーム（医師、看護師、救急隊経験者等の職員）が、24 時間年中無休で対応しています。

東京消防庁救急相談センター連絡番号 # 7 1 1 9 (携帯電話・PHS・プッシュ回線)

その他の電話、またはつながらない地域の場合は……

2 3 区	0 3 (3 2 1 2) 2 3 2 3
多摩地区	0 4 2 (5 2 1) 2 3 2 3



・その他の医療機関案内について

医療機関案内については、前記の救急相談センターのほかに、下記の機関でも同様のサービス行っています。

- 最寄りの消防署や消防分署、消防出張所
- 東京消防庁ホームページ
- 東京都医療機関案内サービス(通称：ひまわり 電話番号：03-5272-0303)

他にも、区市町村によっては、独自に夜間・休日診療体制を実施している区域もあります。区報・市報又はそのホームページ等でお知らせしていますので、あらかじめ休日診療病院等の所在地・道順・電話番号などを確認しておきましょう。

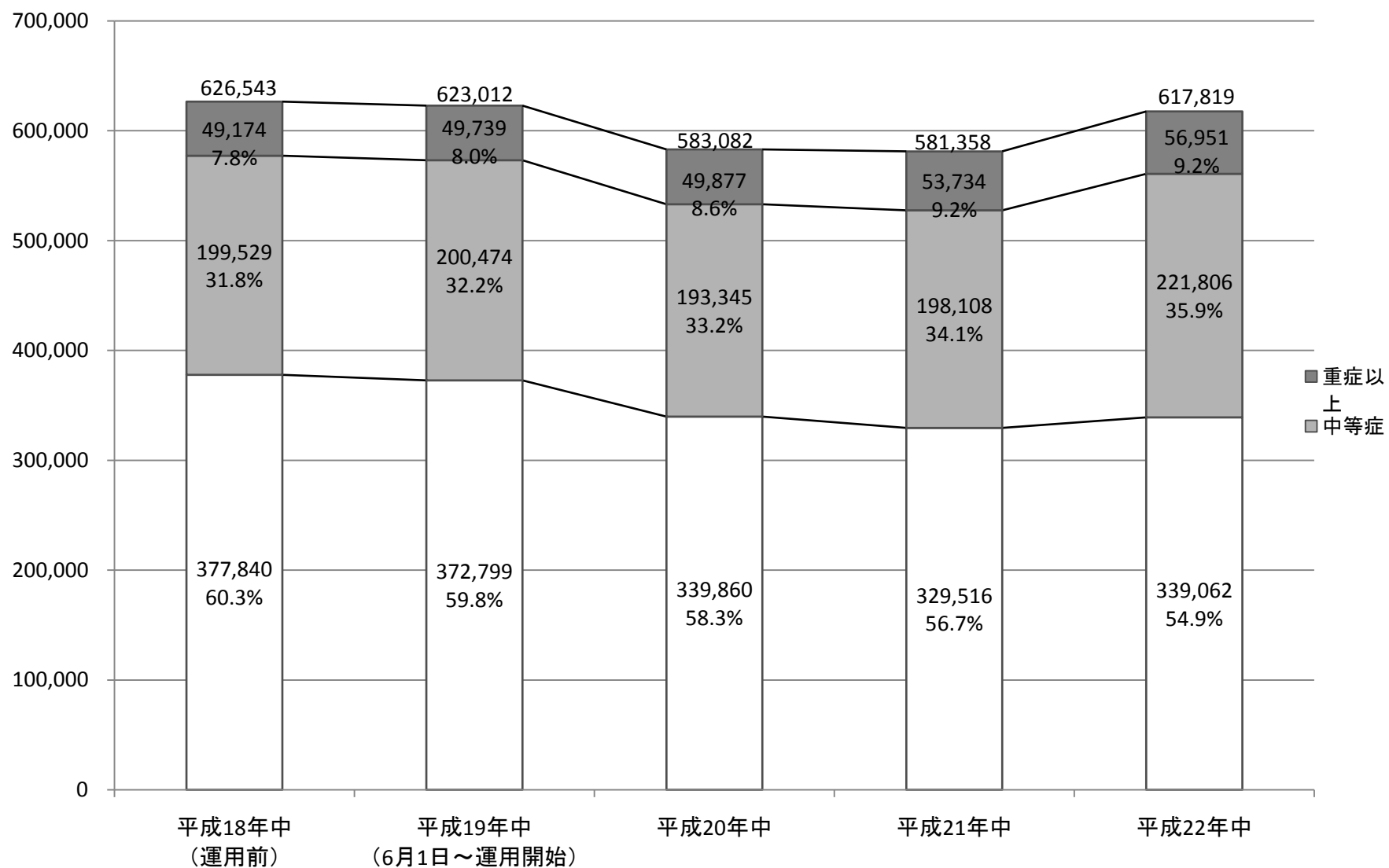
東京消防庁救急相談センター運用開始からの受付状況等

期 間	着信件数	受付件数	医療機関案内	救急相談	救急要請		相談前 救急要請	*かけ直し依頼	**とりきれない電話	救急搬送人 員に占める 軽症割合
					救急要請	中等症以上				
平成18年中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60.3%
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
平成19年中 (平成19年6月1日～平 成19年12月31日)	212,576	155,885	139,685	14,422	1,849	545	287	1,485	56,691	59.8%
	993.3/日	728.4/日	652.7/日	67.4/日	8.6/日	2.5/日	1.3/日	6.9/日	264.9/日	
平成20年中	377,174	279,084	238,531	34,208	4,443	1,358	1,085	5,234	98,090	58.3%
	1030.5/日	762.5/日	651.7/日	93.5/日	12.1/日	3.7/日	3.0/日	14.3/日	268.0/日	
平成21年中	435,735	313,908	251,599	52,940	6,251	2,179	1,262	8,093	121,827	56.7%
	1193.8/日	860.0/日	689.3/日	145.0/日	17.1/日	6.0/日	3.5/日	22.2/日	333.8/日	
平成22年中	448,756	292,882	219,459	66,749	8,145	3,048	2,133	4,527	155,874	54.9%
	1229.5/日	802.4/日	601.3/日	182.9/日	22.3/日	8.4/日	5.8/日	12.4/日	427.1/日	
累 計	1,474,242	1,041,759	849,274	168,319	20,688	7,130	4,767	19,339	432,483	-
	1125.4/日	795.2/日	648.3/日	128.5/日	15.8/日	5.4/日	3.6/日	14.8/日	330.1/日	

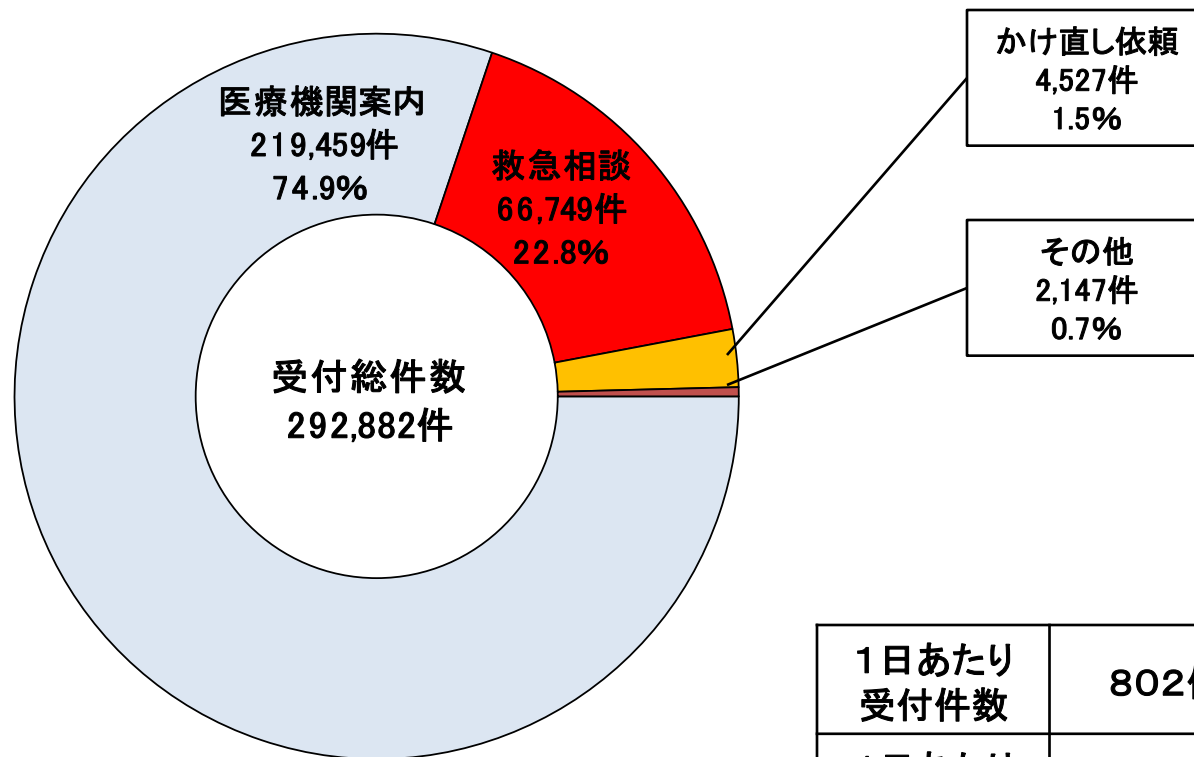
*かけ直し依頼:電話がつながり、救急相談を希望したが、看護師が全て相談中で対応できないことから、電話をかけ直すよう依頼したもの。

**とりきれない電話:機械的にカウントされた「着信件数」から「受付件数」を減した件数(平成21年8月から平成22年5月までは直前3か月間(平成21年5月から7月まで)の比率から推計)

救急相談センター運用開始から平成22年までの初診時程度別割合の推移



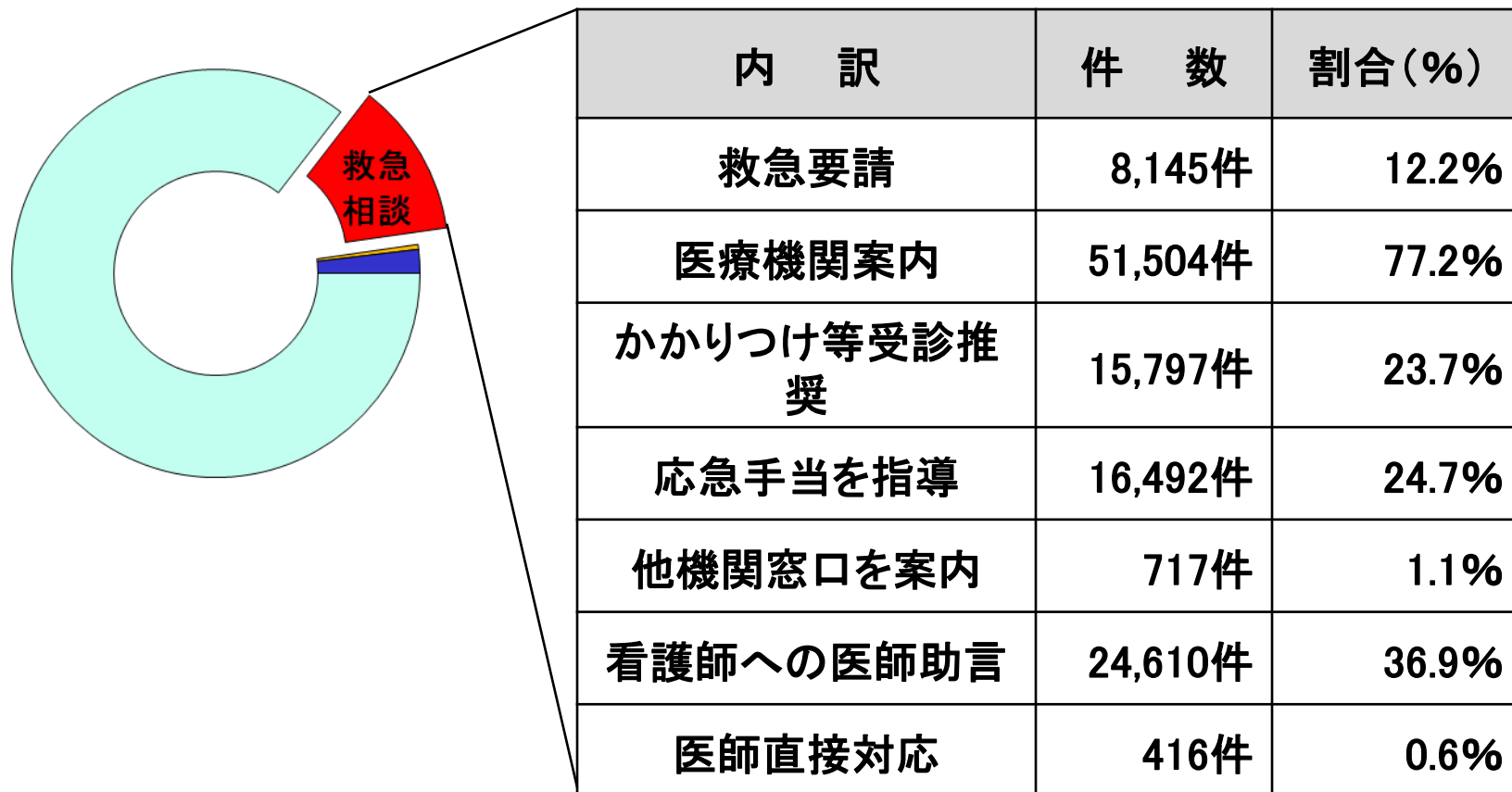
東京消防庁救急相談センターの受付状況（平成22年中）



注 「かけ直し依頼」とは、看護師が対応中のため、利用者に対してかけ直すように依頼した事案をいう。

1日あたり 受付件数	802件
1日あたり 病院案内	601件
1日あたり 救急相談	183件

救急相談内容の内訳（平成22年中）



注 複数カウント

主な救急相談の内容（平成22年中）

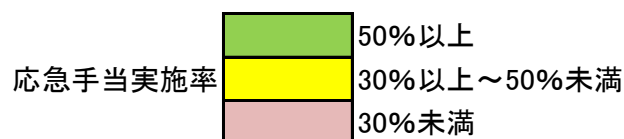
No	内 訳	件 数	割合 (%)	No	内 訳	件数	割合 (%)
1	発熱 (小児)	7,039件	10.2%	6	めまい ふらつき	2,555件	3.7%
2	頭部外傷 (小児)	3,721件	5.4%	7	嘔吐・吐き気	2,152件	3.1%
3	腹痛	3,324件	4.8%	8	発熱	2,098件	3.0%
4	嘔吐・吐き気 (小児)	2,944件	4.3%	9	異物誤飲	1,772件	2.6%
5	頭痛	2,846件	4.1%	10	しびれ	1,456件	2.1%

救急医療週間前後の主な東京消防庁救急相談センター広報行事予定

実施日		実施時間	行事名	会場名	実施場所			主な内容	参加 予想 人員	担当 消防署	記者 対応者	集合 場所	事前レク 開始時間	管理職 出向者
9月9日	金	14時00分から 16時00分まで	救急防災フェア	JR新宿駅構内	新宿区	新宿	3-38-1	・リーフレット等配布 ・ポスター掲示 ・AED体験コーナー	1,000	新宿	救急技術担当 係長 草野 正孝	広場前通路	13:45	救急部長 救急副参事
9月10日	土	10時00分から 17時00分まで	救急・防災フェア (文化センター祭)	北区立 中央公園 文化センター	北区	十条台	1-2-1	・リーフレット配布 ・応急救護講習 ・ポスター、のぼり旗掲 出	4,000	王子	地域防災担当 係長 原 清久	文化センター前 の公園	9:45	救急 医務課長

発生場所別心停止目撃・応急手当実施状況

発生場所		平成21年中				平成22年中				概要
		搬送人員	心停止目撃※	応急手当(胸骨圧迫・人工呼吸・除細動)		搬送人員	心停止目撃※	応急手当(胸骨圧迫・人工呼吸・除細動)		
		a	b	c	実施率(c/a)	a	b	c	実施率(c/a)	
居住介護宿泊施設	住宅(専用・共同・寮・寄宿舍)	8,757	2,445	1,635	18.7%	9,391	3,648	1,919	20.4%	
	自助施設・グループホーム等	76	44	45	59.2%	140	72	67	47.9%	発生率
	特別養護老人ホーム	736	289	419	56.9%	617	303	419	67.9%	発生率
	老人施設(特養以外)	336	156	198	58.9%	469	240	301	64.2%	発生率
	ホテル・旅館・簡易宿泊所	76	22	15	19.7%	72	32	23	31.9%	不特定
会社工場等	会社・オフィス	122	59	34	27.9%	117	80	49	41.9%	
	工場・製造所・作業場	39	11	12	30.8%	84	54	25	29.8%	
	その他仕事場業態の場所	19	10	6	31.6%	16	7	1	6.3%	
販売・サービス業施設		256	160	70	27.3%	238	171	90	37.8%	不特定
娯楽・遊戯施設		59	33	22	37.3%	73	51	29	39.7%	不特定
健康・保養・美容施設		63	24	24	38.1%	63	26	25	39.7%	
医療等施設	病院	75	47	55	73.3%	65	27	52	80.0%	
	診療所・クリニック・医院	81	63	58	71.6%	75	59	59	78.7%	
	助産所・鍼灸院・接骨院等	4	2	0	0.0%	5	4	1	20.0%	
育児児童施設・学校		27	20	15	55.6%	38	23	26	68.4%	公共性
芸術・文化施設		24	14	15	62.5%	17	15	8	47.1%	大規模
運動施設		34	27	31	91.2%	57	46	40	70.2%	発生率
公園・遊園地等		88	20	13	14.8%	106	17	14	13.2%	
宗教施設・斎場等		31	19	14	45.2%	22	11	3	13.6%	
官公庁・行政施設		28	19	14	50.0%	40	21	21	52.5%	公共性
道路車両交通施設	線路・軌道敷	57	27	8	14.0%	62	30	4	6.5%	
	駅	177	99	79	44.6%	167	115	86	51.5%	公共性
	空港	4	3	3	75.0%	8	6	6	75.0%	公共性
	港	1	0	0	0.0%	0	0	0		公共性
	駐車場・駐輪場	58	24	9	15.5%	54	18	9	16.7%	
	一般道路	710	337	166	23.4%	776	454	167	21.5%	
高速道路・自動車専用道路		13	6	4	30.8%	13	7	6	46.2%	
自然環境土地	農地(田・畑)	3	1	0	0.0%	2	0	0	0.0%	
	山林	6	3	1	16.7%	7	2	3	42.9%	
	河川・水路	68	14	11	16.2%	58	8	8	13.8%	
	湖沼等	2	0	0	0.0%	0	0	0		
	海	8	1	2	25.0%	6	3	4	66.7%	
	その他自然環境・土地	15	4	3	20.0%	11	2	1	9.1%	
建築・工事現場		36	13	7	19.4%	31	23	11	35.5%	
その他		40	16	13	32.5%	16	4	2	12.5%	
総計		12,129	4,032	3,001	24.7%	12,916	5,579	3,479	26.9%	



※ 心停止目撃は、市民目撃及び隊員目撃の合計

概要欄 公衆の出入りする場所の区分を記載した。
 公共性・・・公共性のある施設
 傷病者・・・傷病者の発生率が高いと予測される施設
 不特定・・・不特定多数を収容する施設
 大規模・・・大規模集客施設

バイスタンダーによる目撃のある傷病者に対する 応急手当実施状況等(平成22年中)

図1 バイスタンダーによる
応急手当実施状況

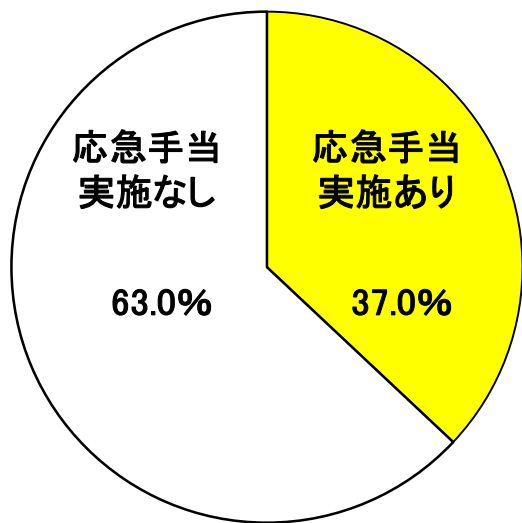
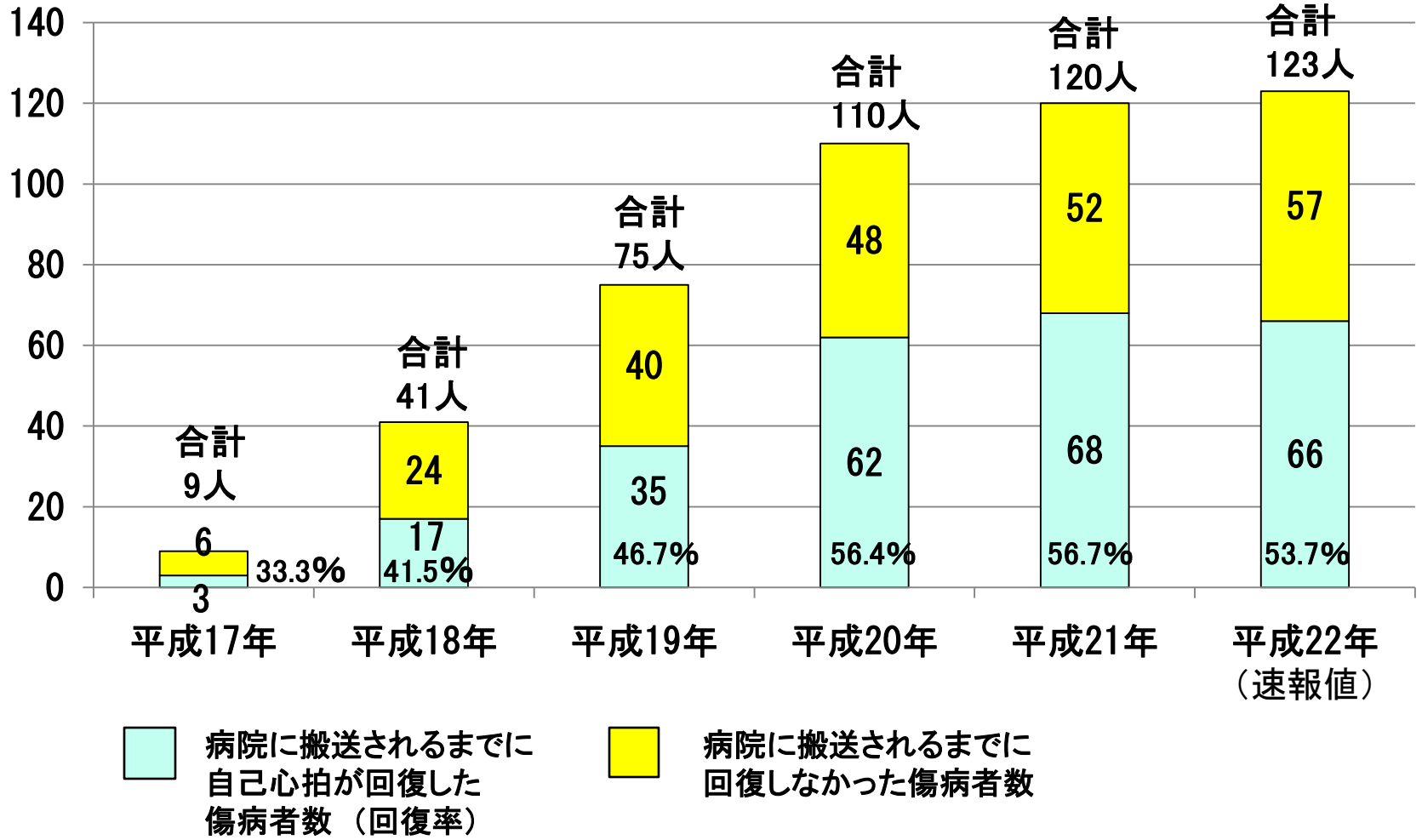


表1 収容前心拍再開・1ヶ月生存状況

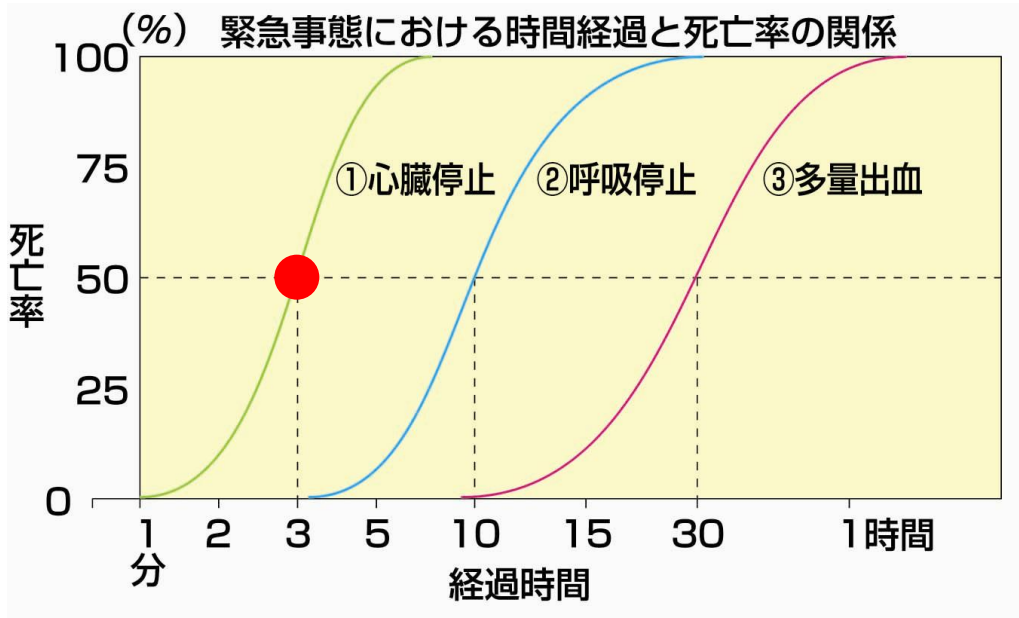
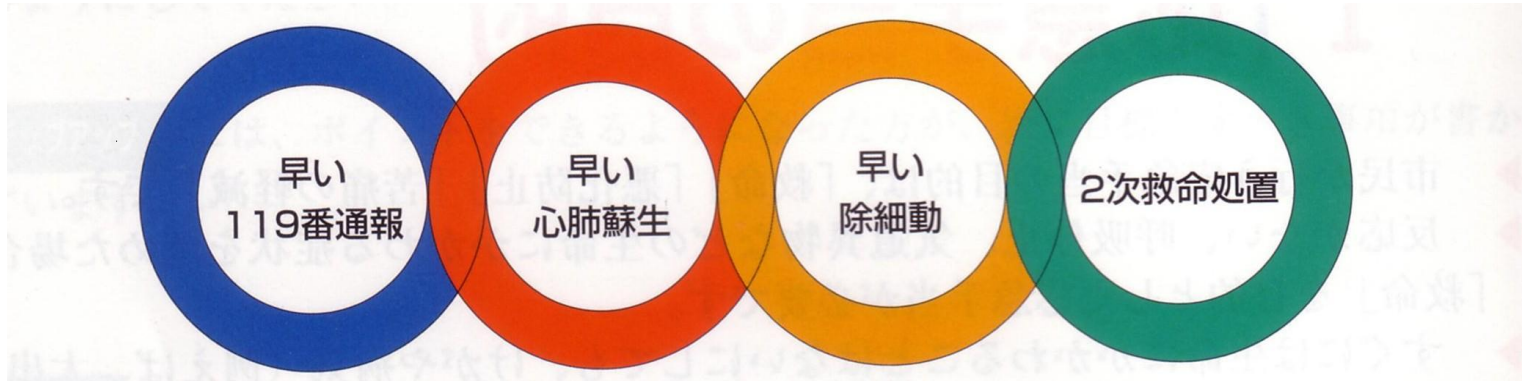
	搬送人員	収容前心拍再開者数	収容前心拍再開率	1ヶ月生存者数	1ヶ月生存率
応急手当あり	1,720	339	19.7%	184	10.7%
応急手当なし	2,927	305	10.4%	120	4.1%
合計	4,647	644	13.9%	304	6.5%

9.3ポイント 2.6倍

都民等によるAEDの救命効果 (医療機関での発生を除く)



救命の連鎖(チェーン・オブ・サバイバル)の重要性



カーラーの救命曲線

たすけあおう！ 笑顔を守ろう！

応急手当

ぼくは
OOQ
あー さゆう
**応急
パンダ**
応急手当は
おまかせなダ!



けがや急病で
苦しむ人を見かけたとき、
あなたは何かができますか？
応急手当ができれば
苦しむ人を助ける
ことができます。
あなたも救命講習で
正しい知識と技術を!



【オセキーパンダ】
©東京消防庁の許可を得て制作されたキャラクター。AEDのイラストは、東京消防庁のAEDのイラストを参考に制作された。AEDのイラストは、東京消防庁のAEDのイラストを参考に制作された。AEDのイラストは、東京消防庁のAEDのイラストを参考に制作された。

日頃から 覚えて安心 応急手当

平成29年度東京消防庁救命講習 作成者 「益子 祐子さん(西東京市)」

「あなたの勇気が、命を救う。」

救命講習で応急手当を学ぼう!

東京消防庁では、都民の皆さんや事業所等を対象として応急手当の講習会を行っています。講習修了者には、認定証が交付されます。また東京消防庁では、3年ごとの再講習を勧めています。一人でも多くの命を救うため、救命技能認定証の交付年月日を確認して、再講習を受けましょう。



病院へ行った方がいいのかな? 迷ったら #7119
救急車を呼んだ方がいいのかな? 迷ったら #7119

東京消防庁救急相談センター [救急相談センター]

急な病気やケガをした場合に、「救急車を呼んだほうがいいのかな?」、「今すぐ病院に行ったほうがいいのかな?」など迷った際の相談窓口として、「東京消防庁救急相談センター」を開設しています。



東京消防庁 東京消防団協会 東京都福祉保健局

東京消防庁

詳しくは東京消防庁のホームページをご覧ください。

<http://www.tfd.metro.tokyo.jp>



102 印刷・制作: 東京都消防局印刷センター